

●まちのニュース

○伐採された桜の代わりが植えられました。(3月19日)

2021年春の開館に向けて工事中の『長谷川町子記念館』の敷地前の3本の桜のうち、1本が、昨年6月、やむをえず伐採されました。その代替として、桜新町区民集会所前、交番の並びに新たに桜が植えられました。

植樹場所は、桜新町親和会と当フォーラムが挙げた候補の中から区が決定し、植栽費用は、長谷川町子美術館が負担されました。→写真右

○桜並木の桜が8本、植え替えられました。(3月18日・19日)

本年度の植替え対象で、11月に伐採された、西大通りの桜新町1丁目内2本、深沢8丁目内2本、深沢7丁目内2本、南大通り1本、東大通りの深沢8丁目内1本の合計8本が植えられました。

植樹作業は、職人4人で30分程度かかるようです。→写真右下

○神学院前の桜並木の剪定が行われました。

(環八～駒沢公園通り間の主要生活道路の一部)

今年度は、神学院前の桜並木の大規模な剪定が行われました。(昨年度は、深沢・桜新町の桜並木と呑川親水公園で剪定が行われました。)



○深沢八丁目無原罪特別保護区春の特別公開

3月30日(土)、31日(日)

4月6日(土)、7日(日)

いずれも10時～16時(無料、申込み不要、直接現地へ)

●さくらフォーラムから

○桜並木で探してみましよう。

写真のプレートには「80万緑化計画事業記念植樹」「平成13年12月11日」の記載が見えます。

このプレートのついた桜を探してみましよう。全部で3本あります。

30万緑化計画事業は、平成12年度～14年度に行われた事業で、当時、世田谷区の人口が80万に達しようとしていたことから80万とされたようです。どのような事業が行われたか、詳しいことは分かりませんでした。区報「80万緑化計画特集号」(平成14年3月10日)が出ています。

○並木の桜の現地勉強会を開催しました。(2月4日)

区公園管理事務所の担当者の説明を受けつつ、剪定の考え方・方法、桜の成長過程、病気・害虫、きのこなどによる桜の健康障害、植樹環境のあり方などを学びました

○桜並木の花芽観察会開催(石井樹木医案内)を開催しました。(3月9日)

○樹木医 和田博幸さんに感謝 昨年2月のご講演以来、本号までの5回のニュースレターで、ご講演内容を紹介させていただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

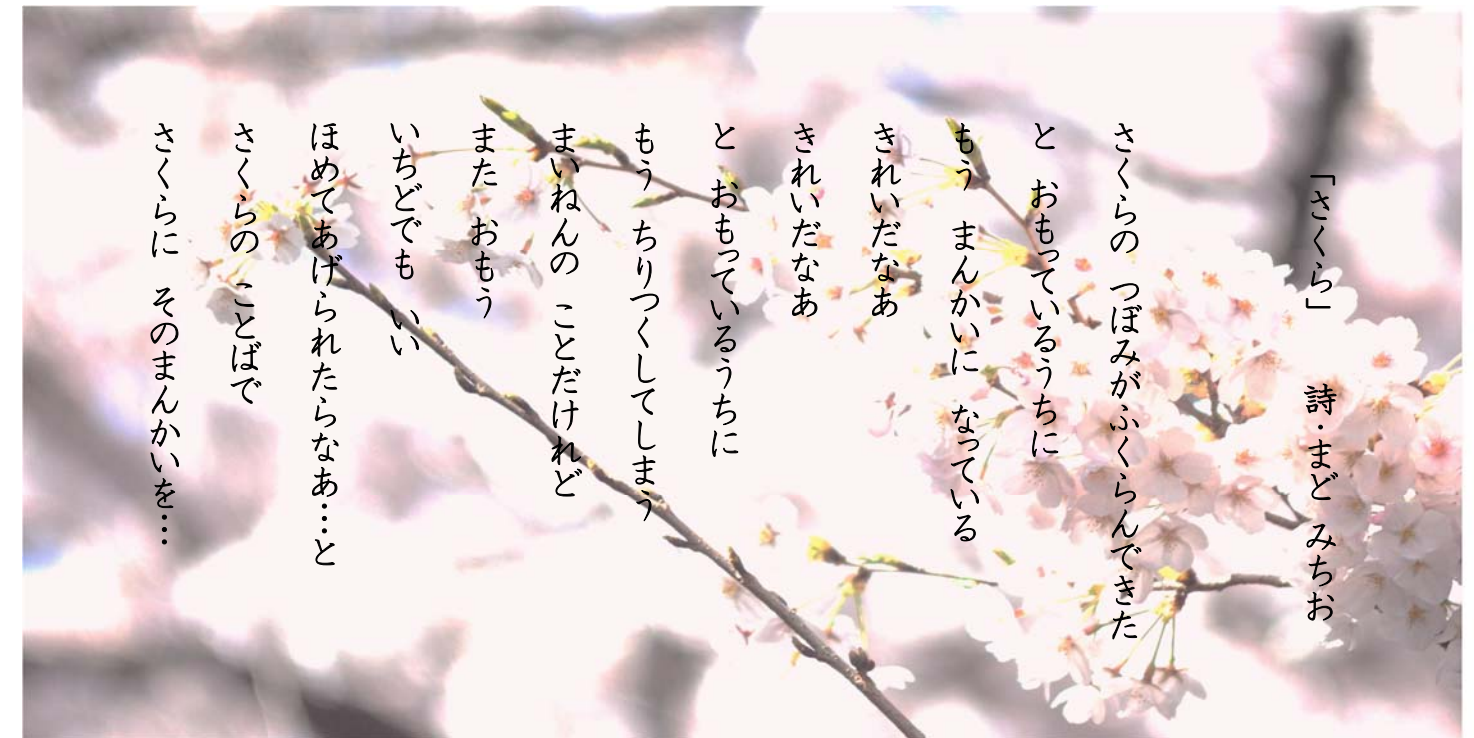
○「深沢・桜新町100年史」(定価500円)を配布しています。下記にお尋ねください。

○会員募集中:この地域の景観・環境・みどりなどに関心のおありの方は、ぜひご参加ください。



深沢・桜新町さくらフォーラムは、地域の風景づくりの活動に取り組む団体です。<http://sakura-forum.jimdo.com/>

2面:桜の本数、桜のおかれた厳しい環境 3面:和田樹木医講演会(2018/2/25)のお話紹介その5 4面:まちのニュースほか



厳しい環境にめげず、ことしも桜は咲いてくれるでしょう。

「地域の桜は地域で守る」、「手を差し伸べれば桜は応えてくれる」 —樹木医 和田博幸さん

当フォーラムでは、深沢・桜新町の桜並木について、以下の取組みを始めました。

- ・樹木位置図の作成
- ・樹木毎の写真撮影
- ・植替え履歴の把握
- ・樹木の健全度・植樹環境の把握

街路樹の桜のおかれた厳しい環境が分かりました。→2面で紹介します。

やむをえず伐採された並木の桜の代替の植樹が実現しました。→4面で紹介します。

お知らせ

この春は、当会主催の「お花見まち歩き」は、実施いたしません。

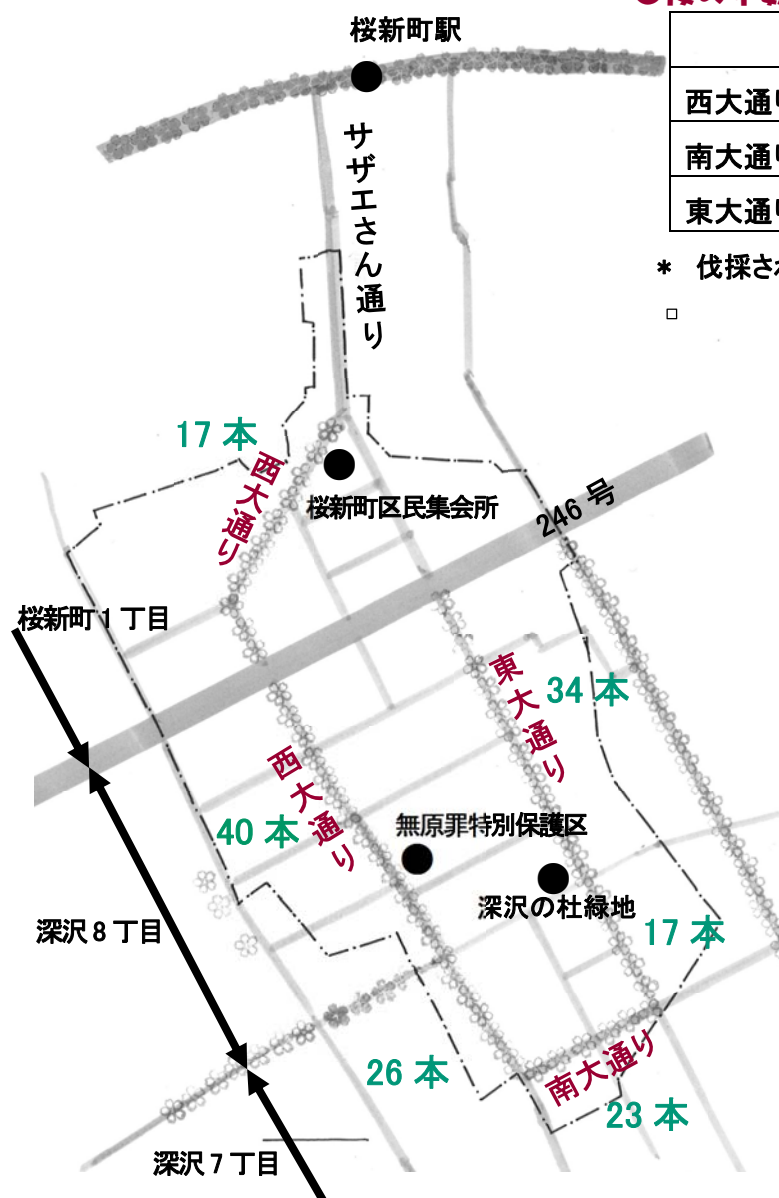
その代わりに兼ねて、3月9日(土)に樹木医 石井誠治さんの案内で桜並木の「花芽観察会」を開催いたしました。その様子は、次号以降でお知らせする予定です。

桜の植替え・新規植樹の写真掲載(4面参照)のため、発行が遅れました。

お手元に本号が届く頃は、満開でしょうか

発行元:深沢・桜新町さくらフォーラム <http://sakura-forum.jimdo.com/>
〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-6 フェリックス気付 電話:03(3702)3274 FAX:03(3702)3219
©深沢・桜新町さくらフォーラム、2019
世田谷区地域の絆連携活性化事業の補助金を受けて作成しました。

●どこに何本の桜が？



●桜の本数 合計 157 本

	桜新町 1 丁目	深沢 8 丁目	深沢 7 丁目
西大通り	17 本*	40 本	26 本
南大通り	-	-	23 本
東大通り	-	34 本	17 本

* 伐採された桜の代替植樹を含みます。4 面をご覧ください。

●桜の植替え

- 区では、幹の断面診断による空洞率 50% 以上を目安として、倒木等のおそれのある桜を順に植え替えています。
- 2016 年度に 3 本、2017 年度、2018 年度にはそれぞれ 8 本を植え替えました。

●桜の樹木番号

- 現在、桜の幹に写真のような番号プレートが着いています。これは、桜新町 1 丁目 33 番にある 5 本目の桜を示しています。
- 『深沢・桜新町 100 年史』p. 61 に記載した番号の付け方と変わっています。
- 現在の番号の付け方が変更される可能性もあるそうです。
- 若い木にはプレートが着いていないものもあります。



●街路樹のおかれた厳しい環境

- 公園に植えられた樹木と違って、街路樹、特に深沢・桜新町の桜並木のように、歩車分離がされていない道路の街路樹は、次のような厳しい環境におかれています。
- そのような条件下で、倒木・接触等による危険が生じないように、剪定や足元の改修がされています。

- ①車その他がぶつかることがある。→写真①(歩道部分の上部です。)
- ②根元は、ぎりぎりまで舗装され、土の部分も踏まれたり車が通ったりして固くなり、根の伸張、呼吸がしにくくなる。水が浸透しない。→写真②、③
- ③交通標識等が見えにくくなってはいけません。
- ④電線等とからまってははいけません。
- ⑤車道上は 4.5m、歩道上は 2.5m まで、空間として確保する必要があります。
- ⑥基本的には、沿道の宅地(民地)に枝や根が入り込まないようにする必要があります。
- ⑦交通遮断が必要となる管理がしにくい。
- ⑧日当たりや通風の条件が植樹後に変化することがある。(たとえば、高い建物が建つと日当たりが悪くなる。)



樹木医 和田博幸さん講演会 (2/25 開催) から-その 5 (完) 地域の桜は地域で守る-

●弘前公園の桜の保全



・1882 (明治 15) 年に寄贈・植栽されたソメイヨシノを始め、50 種 2,600 本の桜が咲き、230 万人の花見客で賑わっています。

・りんごの栽培にヒントを得た剪定と土壤改良による保全・管理によって、130 歳以上のソメイヨシノが元気に咲いています。

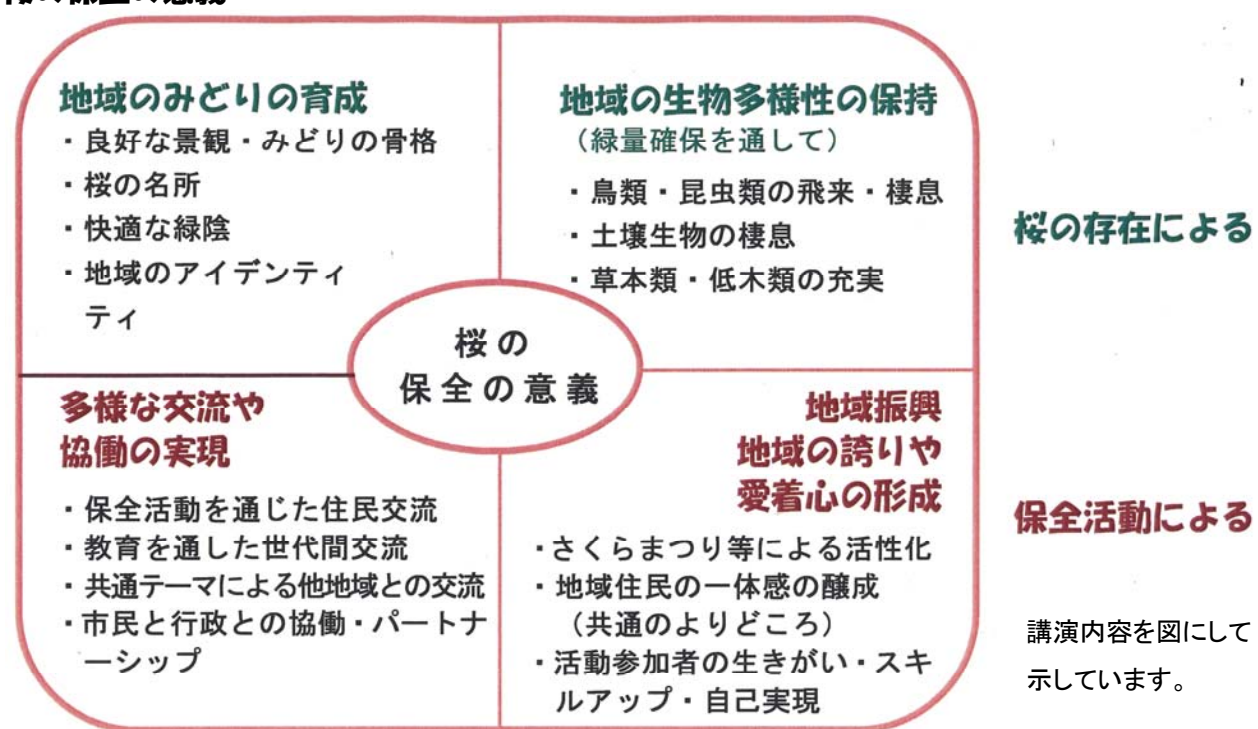
●冬季剪定の目的管理

- ①病害虫の被害枝を除去し被害の拡大を防ぐ
- ②通風と採光を良くし、花芽分化を促進する
- ③枝を更新し樹体の若返りを図る
- ④樹形を整え開花期の良好な景観を保つ
- ⑤枯れ枝等の落枝を防止し、来園者の安全を確保する

●土壤改良 (5 月中~6 月)

道路と違って公園では土壤改良がやりやすく、元気なサクラの保全につながっています。

●桜の保全の意義



●桜を次世代に引き継ぐには

1. 目標を明確に
 - ・美しい桜の風景をつくり、享受する。
 - ・保全活動を通じて、桜をコアにした市民活動の場をつくる。
 - ・保全活動を通じて、地域の自然やみどりを知る。
 2. 保全・管理の考え方を明確に
 - ・体制づくり (地域と行政が管理業者・専門家と協力、役割分担して)
 - ・短期、中長期的効果を期待した計画づくり
 - ・人材の育成
 - ・定期的な検討と見直し
 3. 「桜守」活動の呼びかけを
 - ・地域の桜を中心に地域内外の人が係わる桜の保全活動 ⇒多彩な人材を集める
 - ・桜に対する知識と保全技術のレベルアップを常に目指す⇒向学心と向上心を持つ
 - ・桜を通じてまちづくりや地域の環境保全を考える⇒地域に根ざしている
 - ・行政との連携 (パートナーシップ) が基本。協働により役割を分担して桜保全活動に取り組む
- 実際に汗をかいて活動 左下写真:ヒコバエ切り(福井市立春山小学校)



桜にとって厳しい環境の変化が起こっているようです。また、経験したことのない病気や虫まで発生しました。その変化に対応できない桜は、やがて衰退が進んでいます。みんなで協力して地域の桜に手を添え、守っていきましょう！

